

浦田周社木版画美術館 企画展

新春特集 東大寺・お水取り「修二会の風景」 干支企画「戌年の春」

期間／平成29年12月1日(金)～平成30年3月31日(土) 入館料／無料

展示1 古都奈良に春の訪れを告げる東大寺の伝統行事である「お水取り」のシリーズ作品

西暦752年以来、一度も途絶えることなく1200年以上も続く伝統行事の初めから終わりまでをダイナミックに描かれた大型作品を展示します。

展示2 戌年の春(版画・年賀状)

浦田周社氏が毎年制作している、干支に関する作品を集めました。版画、年賀状は美術館で販売します。

【お問い合わせ】TEL：054-646-5441

戌年の春



第1回SSUスポーツ・健康科学セミナー

スポーツを科学する

日時／平成29年12月3日(日) 9:00～15:20

場所／静岡産業大学経営学部 第2スポーツセンター
(静岡県磐田市大原1572-1)

定員／80名(対象：教員・指導者・一般)

参加費／無料

主催／静岡産業大学スポーツ教育研究所

【お問い合わせ】TEL：0538-37-8985(担当：館) ssu-sports@ssu.ac.jp

〈プログラム〉

- 9:00～ 開講式・鷲崎早雄学長挨拶
- 9:05～ オープニングレクチャー(小林寛道 スポーツ教育研究所所長)
- 9:35～ スポーツを科学するとは(小澤治夫 経営学部教授)
- 10:10～ GPSを用いた位置情報のスポーツ科学(館後樹 准教授)
- 10:50～ ①Jリーグで実践される科学的トレーニング：実技
- 13:00～ ②Jリーグで活用される科学的サポートの実際：講義
(中西健一郎 東海大学准教授・元Jリーグフィジカルコーチ)
- 14:10～ 体育授業で活用される科学的方法の実際
(徐広孝 筑波大学附属駒場中学・高等学校教諭)
- 15:10～ 閉講式

●図書館のご利用について

開館時間	磐田キャンパス		藤枝キャンパス	
	月～金曜日	9:00～19:00	月～金曜日	9:00～19:00
	土曜日	9:00～12:00	土曜日	9:00～17:00
休館日	日曜日、国民の休日、本学行事日、夏季・冬季休暇中の一定期間			
利用資格	静岡産業大学の学生・教職員・非常勤講師、一般市民(高校生以上)			
利用方法	一般の方は初回ご利用時に運転免許証や学生証などの身分が証明できるものをご提示ください。			
お問い合わせ	0538-36-8844		054-646-5441	

※開館情報詳細については静岡産業大学HP「開館カレンダー」でご確認ください。

●大学施設のご利用について

本学では、授業及びクラブ・サークル活動で使用する時間を除き、学外の方が大学施設を利用することができます。詳しくは各キャンパスの総務課までお問い合わせください。

利用可能時間	磐田キャンパス		藤枝キャンパス	
	9:00～21:00		8:00～21:00	
主な施設	各種講義室、グラウンド、スポーツセンター、テニスコート等		各種講義室、コンピュータ演習室、体育館、フットサルグラウンド等	
利用料金	詳細は静岡産業大学HP「貸出使用施設一覧・料金表」でご確認ください。			
お問い合わせ	0538-37-3851(磐田事務局 総務課)		054-645-0191(藤枝事務局 総務課)	

●大学行事予定 2017年度(後期)

9月22日(金)	後期授業開始
11月11日(土)	藤枝キャンパス 鳳翔祭
11月12日(日)	
11月18日(土)	磐田キャンパス 蒼樹祭
11月19日(日)	
11月25日(土)	オープンキャンパス
12月26日(火)	冬季休暇開始
1月5日(金)	後期授業再開
1月12日(金)	休講(センター試験準備)
1月13日(土)	学内立入禁止(センター試験)
1月14日(日)	
1月25日(木)	藤枝キャンパス 情報デザイン展
～28日(日)	
1月29日(月)	後期授業終了
3月14日(水)	卒業式(グランシップ)
3月24日(土)	オープンキャンパス

経営学部 磐田キャンパス
〒438-0043 静岡県磐田市大原1572番地1号
TEL: 0538-37-0191(代表)

情報学部 藤枝キャンパス
〒426-8668 静岡県藤枝市駿河台4丁目1番1号
TEL: 054-645-0191(代表)

藤枝駅前キャンパス BiViキャン
〒426-0067 静岡県藤枝市前島1丁目7番10号
TEL: 054-639-7164

【発行】SSU NEWS企画・編集会議
【発行日】平成29年11月15日



静岡産業大学と地域をつなぐコミュニケーションメディア

November / 2017

SSU NEWS



藤枝市に産学官連携の新拠点 誕生

BiViキャンが産み出す、 藤枝の未来。

対談 / 藤枝市長 北村正平 × 静岡産業大学学長 鷲崎早雄

BiViキャンで起こる、この先のこと。

産学官連携が産み出す未来の教育

自己理解と目標設定をサポートする、SSU独自のキャリア教育

リニューアル
第1号!!

SSU NEWS

27

特集 / BiViキャンが産み出す、藤枝の未来。

藤枝市に産学官連携の新拠点 誕生

BiViキャンが産み出す、藤枝の未来。

『BiViキャン』は「静岡産業大学藤枝駅前キャンパス」と「藤枝市産学官連携推進センター」が一体となり、産業を育て、人材を育て、お互いをつなぐための様々な創造的事業を展開する場として今秋誕生。

オープンしたばかりのBiViキャンへ訪れると地域と大学が共に成長するための機能的で快適な空間がありました。



地域と静岡産業大学をつなぐ 産学官連携の新拠点。

藤枝駅南口の複合商業施設BiVi藤枝の1階にオープンしたスタイリッシュな空間は「何をする場所？」近頃、そんな声が巷で聞こえてきませんか。
学生だけでなく、一般の企業や市民も利用できるという“BiViキャン”の使い方をSSU NEWS編集部が静岡産業大の伊藤崇裕 学長補佐に聞いてきました。

中心市街地にある、 快適で機能的なキャンパス。

この秋、藤枝市の中心市街地にある複合商業施設BiVi藤枝の1階に、市民や企業や行政と静岡産業大学が交流・活動できる開放的なフロアが誕生しました。例えば、学生が地元企業と活発に交流する、子ども達がロボットのプログラミングを大学教授から学べる、藤枝市が推進するICT講座が市民に向けて開講される、そんな産学官の取り組みへの参加が身近なものに。

BiViキャンは…

大学と産業と市民がつながり、
ともに学べるCO-LEARNINGな場所。

街中にあり開かれた場所での発信は学びや研究の成果を市民にも届ける絶好の機会。それは、市民にとっても同じこと。ともに学び、ともに発信することで人と人はつながっていく。この空間で、様々な夢が生まれ、未来がカタチになっていくはず。

▶部屋ごとにデザインやインテリアが違う空間は、ミーティングやアイデアに行き詰った時に場所を変えるだけでも気分転換になり、新鮮な発想や会話が生まれてきそう。そこで語られるのは夢？未来？



活動交流スペース

▶人と人のつながりを生むためには仕掛けが必要。マルシェやワークショップなど市民にとっても新たな交流や情報交換が目的のイベントにトライできそう。人が集まりやすい中心市街地で行われるメリットがあるはず。



トライアルスペース

▶世代も業界も違う多様な人材が集まる空間でシェアするのは知識と経験。学生たちがカラーリング (co-learning) で学んだことをきっかけに、10年後は未来を作る人に。夢と藤枝の未来が同時にカタチになる場所。



セミナールーム

静岡産業大学 学長
驚崎 早雄

1968年、東京大学工学部卒業と同時に、富士製鐵（現新製鐵日鐵住金）入社。製鉄所生産管理部、本社にて、経営計画システムの企画開発に従事。1989年4月にビジネス・システムコンサルティング会社を設立しコンサルティング活動に従事。2002年4月に静岡産業大学経営学部教授となり、2016年4月より静岡産業大学学長に就任。学術博士（東京大学）。



産学官の連携で 産まれること。

藤枝エコノミックガーデニング支援センター「エフドア（写真②）」には、自社で考えているICT事業について話を聞いてほしい、という企業担当者が訪れ始めているとか。エフドアには起業や創業、地元中小企業のチャレンジを活性化するための産業コーディネーターが常駐しており、ビジネスの初歩的なことから専門的な相談まで、幅広く応えてくれる。「藤枝は中小企業が多い街。ビジネスの相談窓口がキャンパスと隣接しているという珍しい形態を知って、気軽に相談に訪れてくれれば…企業も学生も既存の枠にとらわれない、新しい交流を生み出すためにも」。BiViキャンをどう使っていくかは、学生や市民や企業でアイデアを出し合っていけばいい、というニュートラルな印象を受ける。

産学官連携で産業と人材を育て、つなぐというBiViキャンのコンセプトは、10月31日に行われた藤枝市議会による「冠講座」が、良い事例の一つになりそう。冠講座とは、人材育成のために企業や行政機関等が提供する寄附講座のこと。その日は静産大学生と市議会議員が同じテーブルで藤枝の明るい未来につながる具体的な課題解決についてのディスカッションをした。「子育てや働き方、暮らし方など若者の視点で未来に向けて市議会議員との熱いセッションの場となった」とのこと。「学生たちの新しい学習の機会がBiViキャンが街中にあるからこそ創り出されるもの。産学官が連携することで、ここでしかできない授業を取り入れていきたいですね。例えば、藤枝駅商店街の活性化を研究するのであれば、実際の現場をすぐ見に行ける、学生や教員がアクションを起こしやすい

いのが駅前キャンパスの強みのひとつでしょう」と、伊藤氏は力を込めて話す。

産学官の連携や、地域社会との交流、人材育成の活動の中心部になりそうなのが「セミナールーム（写真③）」。ラーニング・コモンズ、ワーキング等、学生や企業の多様なニーズに応える場所をどう利用するか？可動式の壁を開放し、駅前キャンパスと一体化すれば大人数が参加可能な学びのスペースが生まれる。また、小人数であればテーブルを使って気軽に利用が可能。「誰もが出入り自由なフリースペースとして、



③
セミナー
ルーム

一般市民向けの公開講座や講義を実施する先進的で実践的な教育の場として、教育・文化などの教育講座を提供していくスペース。研修や会議での利用も可能。



④
活動交流
スペース

リラックスした場所で学び、交流し、みんなで作りあげる。「活動交流スペース」は、そのプロセスも可視化できる場所。

活動に制約をかけたくない場所です。本音言えば、まずは学生が使い出すこと、駅を起点に動いている学生がシャトルバスに乗ってここへ、ちょっと立ち寄る姿が日常になるといい。そうなるためにもカフェを誘致しているところ」だとか。

BiViキャンはただのサテライトキャンパスではない。学生にとっては、新しい学びの場でもあ

り、交流の場。その活動の様子が見えることで「何をやっている場所？」と市民の興味を惹き、「静産大はおもしろいことをやるね」と声が聞こえはじめた今、この場所が藤枝の情報発信の拠点になることを益々期待したくなる。市や企業からのオファーや学生・教員のアクションから、産学官の連携で何が生まれ、どう発信されていくのか。BiViキャンの未来に今後も注目しよう。

学生の能動的な活動の支援、公開講座などの市民に開かれたサービス、開かれたICTコンソーシアム拠点として、未来をつくっていく若者の教育に役立てていきたい。

IT'S NEW!! 藤枝の子どもたち、静産大学生がBiViキャンで学び始めました！

オープニングセレモニーが 開催されました。

10月11日に藤枝市と静岡産業大学の共催で開設記念式典を行いました。北村市長は「既存の施設も生かし、大きな相乗効果と人の流れを生み出せるように力を注いでいく」と挨拶し、鷺崎学長は「学生が能動的に学習を行うプログラムを提供していきたい」と述べました。



オープニングセレモニー後には、元Google副社長の村上憲郎氏による記念講演が行われました。

SBS学苑との連携講座、 「ICT・プログラミング教育」。

「ICT教育では今の子どもたちに、自分で作ったもので人を楽しませる体験をしてもらいたい」と、情報学部部の佐野典秀教授(写真上)が語るように、子ども向けのオープンカレッジ事業(SBS学苑との連携講座)では、ICT・プログラミング教育に注目。



プログラミング専用子どもパソコン「Ichigojam」を使った講座では(写真下)、センサーやLEDの制御のプログラミングを学ぶ。

藤枝市の「冠講座(全11回)」が 始まりました。

第3回目(10月31日開催)は「市議会議員と考える藤枝の未来」をテーマにワークショップが行われ、市議会議員が進行役やアドバイザーを務めながら子育て支援や産業振興など今後のまちづくりについて学生と意見を交わしました。冠講座は一般の方も無料で聴講できます。



参加学生を3グループに分け、市議会議員がファシリテーターとなって課題解決のための議論の進め方を指導。

小中学生を対象にした「ICTプログラミング講座」はこれ！

「BASICプログラミング講座(対象:小3~小6)」
「マイコンプログラミング講座(対象:中学生)」
「ロボット・プログラミング入門講座(対象:小学生低学年)」



オープニングセレモニーで、元Google副社長 村上氏の講演がありました。／

IoT、ビッグデータ、AI、技術開発の高速化は、日々進行しています。このスピードで進めば、今後数年で第四次産業革命がやってきます。新しい技術は、私たちの生活を便利にしてくれます。一方、それによる雇用の減少や取得できる情報量の格差などのネガティブな部分もあります。大きな変化の時代には、大きなチャンスもたくさんあります。学生にはこの変化をチャンスと捉え、柔軟なアイデアと、失敗を恐れずに実現していく行動力で、新しい社会に積極的に関わってほしいと思います。

京都大学で工学士号取得
東京工業大学学長アドバイザーボード委員
大阪工業大学客員教授 / 会津大学参与

村上 憲郎

2003年、Google米国本社副社長兼Google Japan代表取締役社長としてGoogleに入社以来、日本におけるGoogleの全業務の責任者を務める。2009年1月名誉会長に就任、2011年退任、村上憲郎事務所を開設。京都大学工学士号。



HOW TO USE イベントやワークショップなど、イメージを広げ、BiViキャンを利用してみよう！

今後は産学官連携の活動や大学の授業だけでなく、市民が企画するイベントが「セミナールーム」で企画されることが多くなりそう。例えば、多世代交流などのイベントで静産大生とコラボレーションするのも面白い。

「トライアルスペース(写真⑧)」は地元物産品を販売するマルシェの出店など、電源設備や什器の用意もあり、イベントやワークショップにも活用できる。他にも学生が学んだ成果の発表の場として展開できそう。学生と企業が共同開発した商品をここで販売してみてもどうだろうか。

市民にとっても居心地が良く、映画やショッピングの合間のくつろぎの場所になりそうな「フリースペース(写真⑨)」。

「活動交流スペース」は広々とリラックスできる空間で、カフェに居るような感覚で学べる場所。産学官の連携や、地域社会との交流、人材の育成などを目的にした活動をしなが、この場所で美味しいコーヒーを飲みながら語らい、交流することが日常になれば、絶好のサードプレイスになるかもしれない。



● 利用料金 ※料金は税込。その他詳細は藤枝市が定める条例や施行規則に従うものとします。

場所 面積	セミナールーム 170.01㎡	セミナールーム(半面) 85.01㎡
【午前】9時～12時	7,650円	3,820円
【午後】13時～17時	10,200円	5,100円
【夜間】18時～21時	7,650円	3,820円
【午前・午後】9時～17時	20,400円	10,200円
【午後・夜間】13時～21時	20,400円	10,200円
【1日】9時～21時	30,600円	15,300円

場所 面積	活動交流スペース(全面) 372.87㎡ ※エフドア 定休日に限る	活動交流スペース(一部) 85.01㎡
【午前】9時～12時	16,770円	3,820円
【午後】13時～17時	22,370円	5,100円
【夜間】18時～21時	16,770円	3,820円
【午前・午後】9時～17時	44,740円	10,200円
【午後・夜間】13時～21時	44,740円	10,200円
【1日】9時～21時	67,110円	15,300円

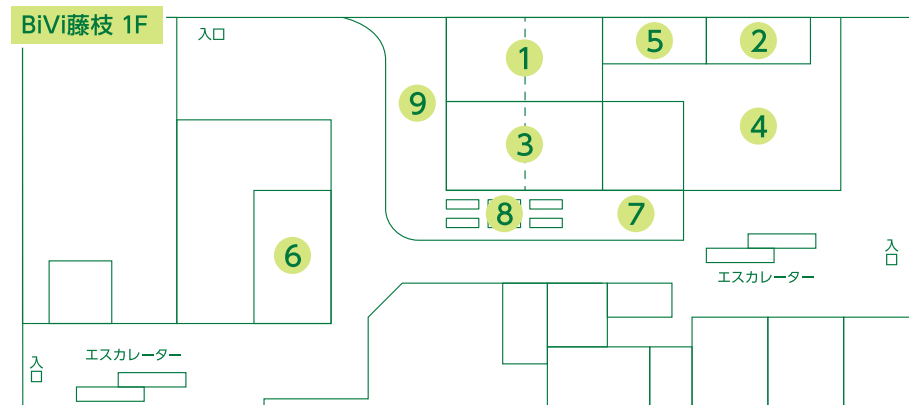
● 利用時間 / 9時から21時まで ※準備から片付けまでの時間含む。

● 休 館 日 / 12月29日～1月3日 ※設備点検等による休館、行事等により、一般貸出ができない場合があります。

【お問い合わせ先】 静岡産業大学藤枝駅前キャンパス 藤枝市産学官連携推進センター / TEL.054-639-7164
藤枝エコノミックガーデニング支援センター「エフドア」 / TEL.054-637-9008

BiViキャン 施設概要

- 1 大学講義室
- 2 EG支援センター「エフドア」
- 3 セミナールーム
- 4 活動交流スペース
- 5 静岡産業大学事務局
- 6 食メディアラボ
- 7 学生支援スペース
- 8 トライアルスペース[チャレンジショップ]
- 9 フリースペース



BiViキャンから始まる 藤枝の新しい未来

北村市長(以下、北村) BiVi藤枝の1階に藤枝駅前キャンパス「BiViキャン」がオープンしましたが、学生さんの反応はいかがですか。

鷲崎学長(以下、鷲崎) 今、大学の授業やゼミ活動の一部をBiViキャンで行っています。始まったばかりではありますが、明るく開放的な施設そのものや、駅前にあるという便利さは十分に感じていると思います。

北村 BiViキャンの隣には産学官連携推進センターもあります。センター内には、地域産業の経営や起業・創業を伴走してサポートする「エフドア」、地域産業のICT活用およびICTを活用した新たな仕事を提供する「藤枝ICTコンソーシアム」、さらに、地域におけるIoT活用を研究し促進する「藤枝IoT推進ラボ」が一堂に入居しています。また、ABCクッキングスタジオさんと連携して食の多様な可能性を研究する「食メディアラ

ボ」もあります。静岡産業大学には、こうした機能、組織をうまく活用して、企業やまちづくりの関係者と交流し、ともに活動していただければと思っています。

鷲崎 はい。私もどもとしてもいろいろな企画を考えています。例えば、本学では現在、教員と学生が市内の小中学生に人型ロボット「Pepper」のプログラミングを教える講座を開催しています。この講座の集大成として、11月26日にBiViキャンでコンテストを行う予定です。今後も、市民の方や企業と一緒に挙る講座をどんどん開催していきたいですね。

北村 ICTやIoT、AIといった情報分野の研究は、今、大学や企業では大変に盛んですけれども、日本の人口が減少し続けることを考えれば、地方自治体でも絶対に必要になってきます。だからこそ、BiVi藤枝に「藤枝ICTコンソーシアム」や「藤枝IoT推進ラボ」を設置したのです。このほか、藤枝市では、市立の全小中学校に計161台のPepperを導入し、プログラミング学習を実施す

るなど、さまざまな取り組みを始めています。こうした先進的な改革は、静岡産業大学という強い味方がいるからこそ可能なんです。地元で静岡産業大学があり、情報分野でいろいろな挑戦できる。このアドバンテージは、ICTやIoT、AIの活用が地方でも当たり前になったとき、大きく活きてくると思っています。

鷲崎 私ども大学側にとっても、市や企業との連携は大変に重要であり、かつ意義のあるものと捉えています。私が学生の頃は、大学の授業というのは、大きな教室に詰め込まれて先生の講義を聞くだけでした。果たしてそれで勉強したことになるのか。これからの教育は、学生たちが自ら考えて行動する力を養うものでなくてはなりません。そしてそれは、大学の中だけでは実現不可能です。市民の方や企業の方と交流するなかで問題に気づき、自らの課題として考える。そうした機会を、BiViキャンを通じて学生たちに提供していきたいと考えています。

【対談】藤枝市長 北村正平 × 静岡産業大学学長 鷲崎早雄



藤枝駅前キャンパス

BiViキャンで

起こる、この先のこと。

BiViキャンの生みの親でもあり、仕掛人でもある北村正平藤枝市長と鷲崎早雄学長。二人はBiViキャンにどのような願いを託しているのでしょうか。

若い世代の力で 世界をリードする藤枝市に

北村 私はこれからの時代、「人」が何よりも大切だと思っています。地域を、街を明るく盛り上げて魅力を高めていくのは、ほかでもない「人」ですから。静岡産業大学の学生さんや、若い人たちが学び、成長できる場を提供すること。そして、育った人材が活躍できる場づくりを進めていくこと。その結果、新たな産業や暮らしを支え、世界でも活躍できるような人が育ち、それにより、また幅広い人材が集まって産業と街が発展していく……。そんな大きな人の流れと好循環が生まれることを大いに期待しています。

鷲崎 私もぜひ、BiViキャンを通じて藤枝市の発展に貢献できればと考えています。研究と教育、そして地域貢献が大学の使命ですから。先程は子ども向けの講座のお話をしましたが、BiViキャンでは、大人向けのオープンカレッジの準備も進めています。開校したら、年齢を問

わず、できるだけ大勢の方にBiViキャンに関わってほしいですね。「こういう講座をやってほしい」という要望や「こんな講座はどう?」という提案も大歓迎。本学内の静岡産業大学総合研究所には「地域連携室」があり、そこが窓口となっていますので、ぜひ活用してもらいたいと思っています。

北村 今回のプロジェクトは、市内はもちろん市外からも大変注目が集まっています。10月11日のオープニングセレモニーでは、川勝県知事が「県も大学とのコンソーシアムを企画しているが、藤枝市が先行して産学官連携を進めているのは大変にすばらしい。頑張ってください」とおっしゃっていました。実は、こうした取り組みは全国的に見てもまだまだ珍しいのです。必ず成功させなければならないという重責を感じる一方、静岡産業大学の力を借りて、藤枝市を、日本を、ひいては世界をリードする産業の街にするというのが私の夢なんです。

鷲崎 BiViキャンも産学官連携推進センター

も、可能性は無限大だと思っています。あとはそれをどう実行に移し、夢を現実にしていくか、ですね。BiViキャンは立ち上がったばかりですから、しばらくの間は、市や大学が、講座やイベントという形で産学官が交流できる場を提供する必要があります。ただ、最終的な目標は、市や大学が用意したさまざまな試みがきっかけとなって、学生と市民の方からアイデアだったり、ビジネスだったりが発自的に生まれることです。多少の時間はかかるでしょうが、アイデアやビジネスが発自的かつ継続的に生まれる環境が醸成されたときにようやく、今回の取り組みが成功したと言えると思っています。

北村 同感です。静岡産業大学には本当に期待しています。市としても精一杯サポートしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

鷲崎 こちらこそよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

藤枝市長 北村 正平

【学生へのメッセージ】
国内を見回してもこのように恵まれた教育環境はありません。学生の皆さんが思う存分、学び、経験し、活躍できるステージです。日々BiViキャンに来て、大いに学び、さまざまな人たちとコミュニケーションをとり、新たな一歩を切り拓いてください。そして、未来の藤枝、地域を、皆さんの力で築き、その先の豊かな人生に繋げてください。

産学官連携が産み出す 未来の教育

経営学部
山田ゼミ

藤枝市・蓮華寺池公園内に スポーツと健康に特化した子育て支援施設

予想を越える13万人が利用。産学官連携でスポーツ保育の可能性に取り組んでいます。

藤枝市のれんげじスマイルホール「キッズパーク」は、フィットネスクラブのティップネスが受託運営する「運動に特化した子育て支援施設」で、本学の山田悟史准教授が「スポーツ保育」に基づいて監修しています。大変好評で、年7万人利用の見込みを大きく超え、13万人の利用があり、産学官の連携が上手くいった例として、自治体総合フェアなどで発表されています。キッズパークは半分が常設遊具のある「プレイゾーン」、のこり半分が通常の体育館機能を残し教室などを行う「スポーツゾーン」となっています。このプレイゾーンの遊具は、本学のスポーツ保育の考えに基づいて配置され、スタッフ教育にもスポーツ保育が取り入れられています。株式会社ティップネスと本学共同で、スポーツ保育に基づく「TIP遊び」（ていっぷあそび）を開発し、TIP遊びの効果検証を行っています。TIP遊びの効果検証は、藤枝保育園の協力を得て、3ヶ月間のTIP遊びをしたときの運動能力の変化や、TIP遊び中の身体活動量の特徴などの測定を行うものです。その結果、子ども達の主体的な活動を促すスポーツ保育に基づく運動あそびは、高い活動量と効果があり、何よりも子ども達が楽しく取り組めるものである事が示されました。本学の学生達も測定などを精力的に行い、活きた経験になっています。また、スポーツゾーンでは、本学学生がスポーツ保育教室を行っています。産学官で次世代の指導者育成にも取り組んでいます。



経営学部
葉口ゼミ

磐田市中央市街地の活性化に関する調査と 提言プロジェクト

創る、考える。学生たちの自由でユニークなアイデアが中心市街地の活性化を具現化。

経営学部の葉口ゼミ3年生（15名）の専門ゼミナール活動では、磐田市役所からの委託で実施した交通量調査を行いました。その結果も踏まえ、若者視点による自由な発想で、磐田市中心市街地活性化に対する提言書を作成し、9月初旬に成果を磐田市商工会議所にて発表しました。

当日は、学生が司会進行役を務め、会場に集まった市役所、商工会議所の職員をはじめ、まちづくり実行委員、商店街の人たちを前に、提案をプレゼンしました。①リアルとバーチャルのスポーツ（eスポーツ）を楽しめる商業・娯楽施設 ②犬猫の保護活動の拠点として、人にも動物にもやさしい街のメッカとするプラン ③市内を旅しながら写真撮影し、しゅべいを含めたGIFアニメ動画を作成し、SNSで拡散するプラン ④磐田市内の中学・高校・大学・専門学校に通う学生が年齢を越えて、楽しく過ごすことのできる「トモカフェ」の設置 といった内容が4チームから提案され、フロアからも多くの質問がありました。最後の総評では、「中心市街地活性化というテーマは、磐田市のみならず、地方都市が抱える非常に難しい、停滞している問題ですが、皆さんの提案はどれも自由でユニークな発想に基づくもので非常に感心しました。」とのコメントをいただきました。学生らも自分たちのアイデアを地域の人たちに伝えることができ、とても充実した様子で、また当日の様子は新聞でも紹介されました。今回の提案の中から、来年度の商工観光課の事業として動画アニメを利用した案が採用され、ゼミ活動を通じて取り組む予定です。



SSUの産学官連携、その他にもこんな活動をしています

静岡県ラグビー人気醸成プロジェクト 「ラ★ガール」

ラ★ガールは、経営学部の大沼ゼミが中心となり展開中の静岡県内ラグビー人気醸成プロジェクトです。2016年度から静岡県の委託事業として開始され、今年で2年目を迎えています。昨年度は学生にとっては少しハードルの高い24頁の小冊子を作成しましたが、チームワークを駆使し、想像以上の力を発揮してくれました。2年目は映像と体験をキーワードにした企画を展開中です。ハードルは高いですが、学生の持つポテンシャルに期待しています。



平成29年度しずおか中部連携中枢都市圏 地域課題解決事業

本学では、平成29年度「しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業」として6件の事業が採択され、圏域内の地域課題について学生や教員が地域と一体になって研究に取り組んでいます。例えば藤枝市の「若者層の就職時の首都圏等への流出」課題について、学生が藤枝市内の魅力ある企業の仕事内容や成長の秘訣等を取材、調査し紹介冊子を作成。地元企業の新たな魅力を学生目線で発見・発信することは、学生自身の就活の選択肢を広げることに繋がります。



スポーツを通じた地域連携 （SSU×磐田南地区協働企画）

スポーツには、人々を結びつけ地域を活性化する力があります。磐田南地区ラジオ体操に女子サッカーボニータの選手が参加し交流を図ってきたなかで、今回は、磐田南地区運動会を地域住民と本学学生が協働運営を行うことになりました。本学学友会メンバーを中心に運営補助と協働企画によるボニータ交流会が行われ、地域住民からは「磐田っていいな」「感動しファンになった」「力をもらった」など多くの称賛をいただき、学生は自信をつけました。



SSU×「じゃらん」共同企画で 若者向け旅行を提案!

経営学部と情報学部の学生16名が「川根本町活性化プロジェクト」に参加。若者向けの旅プランを開発しました。まず、プロの編集者から企画・旅行プランの作り方を学び、事前調査を踏まえ、4泊5日のフィールドワークを実施。地元の方に地域資源の魅力や現状の課題等を取材し、観光施設を体験しながら旅プランを検討。観光施設との交渉から採算の見通しまでを学生が担当し、実践しながらの体験に達成感と自分自身への課題を発見していたようです。



2017年度自治体助成対象事業一覧

事業名	自治体	課題名	教員名(ゼミ名)※敬称略
ふじのくに地域・大学コンソーシアム「ゼミ学生等地域貢献推進事業」	静岡県	販路に感動! 白葉茶	柯 麗華 ゼミ
	伊豆市	若年層に向けた観光PR(メディアマーケティング)	高城佳那 ゼミ
	藤枝市	岡部宿大旅籠柏屋の活性化について	小出雅俊 ゼミ
	静岡県	静岡県内の若者に献血を普及させるための方策に関する研究	葉口英子 ゼミ
しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業	藤枝市	IoT活用モデル事業の展開	佐野典秀
	藤枝市	旧東海道の活用について	堀川知廣 ゼミ
	藤枝市	若年層の就業時の首都圏等への流出	太田裕貴 ゼミ
	島田市	お茶資源を活用した観光商品化に関する研究	土居繭子・柯 麗華・吉野亜湖
	静岡市	井川地区の活性化プロジェクト	藪崎 栄・外立ますみ・塚本由紀江
	静岡市	『しずまえキャラクター』で四季折々のデザインを!	植松頌太
地域課題研究事業	藤枝市	ロボット・プログラミングコンテストの実施	佐野典秀 ゼミ
ごみ分別アプリ作成事業	磐田市	磐田市ごみ分別アプリ維持管理業務	青木 優 ゼミ
静岡県土地改良事業団体連合会事業	静岡県	静岡県おもてなし弁当開発	熊王康宏 ゼミ
ラグビーワールドカップ2019に向けた機運醸成事業	静岡県	「ラ★ガール」冊子作成	大沼博靖 ゼミ

SSU Report

自己理解と目標設定をサポートする SSU独自のキャリア教育と 就職支援とは？

それは入学前から夢見ていたこと。おぼろげだったけど、積極的に取り組んだからこそつかんだ未来。
自己理解と目標設定に対してアクションを続けた二人が語る就職内定までのストーリー。

目標が明確になった 「キッズスクール」の経験

高橋 みなみさん

経営学部 スポーツ経営学科
(愛知県立豊丘高等学校出身)
内定先／蒲郡市役所・保育士

高 校生の頃から、ずっと保育士になりたいと思っていました。バレーボール部が強い産大で部活動と両立しながら公務員保育士になるために必要な9科目の国家試験、公務員採用試験合格を目標に、将来の自分をイメージ。自分の将来像がはっきりしてくると、忙しくても充実した時間の使い方ができたと思います。スポーツ保育を学び、3年生から山田ゼミに入ることがきっかけで、スポーツ保育サークル「すきゃもん」が運営するキッズスクールを通して得た経験が自分の目標をより明確にしてくれました。キッズスクールでは週2回の事前ミーティングで1時間のメニューを考え、当日は年中から小3までの子どもたちを年齢ごとに3つのグループに分け「遊びを通してスポーツを楽しんでもらうこと」を実践しました。4年生の前期、自分のプランしたメニューに取り組む時は、うまくいくか不安でドキドキ。でも、実践してみてわかったことは、“年齢に適した遊びがある”ということ。このことから、幼少期の子どもたちが身体を動かすことに積極的になれるような保育をしたいと考えようになりました。将来は保育士として子どもたちの心のよりどころになりたいと思います。来春、公務員保育士として働くようになって大好きなバレーボールは地元蒲郡市の社会人リーグで続けていきます。今は大学最後となる秋の県リーグに向けて気合いが入っています。悔いのないように思い切りやります！

知ってましたか？

スポーツ × 保育

経営学部ではスポーツ保育の実践の場として、学生が地域の子どもたちにスポーツ(サッカー、バレーボール、体操、テニス、バスケットボール、幼児スポーツ等)を教えるキッズスクールを運営しています。指導からマネジメントまで学生が全て運営するため、教える楽しさと大変さの両方を実感でき、働くうえで大切な責任感が身につきます。ここでの経験がやりがいにつながり、保健体育の教員、保育士や幼児向けのスポーツの指導者をめざす学生が数多くいます。



進路がはっきり見えた 「インターンシップ」

情報学部
国際情報学科
(私立城南静岡高等学校出身)
内定先／静岡信用金庫

本間 雄大さん

将 来は金融業界に就職しようと、その目標に近づくためのプロセスとして高校で3年間、簿記の勉強に打ち込んだことで日商簿記2級を取得しました。入学時は公務員の道を選ぶかの二択で悩みましたが、資格を活かし、インターンシップで企業や業界を知る機会を得たことで金融業界への就職を第一に志望するようになりました。学内選考を経て2年と3年の夏休みに信用金庫へ。とにかく大学名と顔を覚えてもらえるよう、時間を見つけて先輩職員に個別で質問をするなど積極的にコミュニケーションをとりました。そうした中で先輩職員に同行した営業ではお客様と会話する場面もあり、地域に密着した仕事ぶりや職場の雰囲気に惹かれ、ここしかない!と思うようになりました。元々、人と接することが好きでしたが、アルバイトで経験した接客とは違い、お客様へのアドバイスやサポートをする先輩職員の姿は「自分も将来こうなりたい!こういう働き方をしたい!」といった職業観を深めるとともに、憧れであった金融マンになる気持ちが固まったことを記憶しています。なりたい、という気持ちがしっかりとすると、就活で集団面接、個人面接、役員面接に自信を持って臨めます。インターンシップの前後ではキャリア支援課の個別面談を利用してフォローしてもらったこともプラスになりました。インターンシップ中は一時も無駄にせずコミュニケーションすることで、人を知り、企業を知り、自分を知ることができたと思います。



はじめの一步!

まず学内インターンシップから

本学では、学生に社会的スキル(社会人基礎力)を磨き、働くことの大変さ、難しさ、楽しさを体感してもらうための「学内インターンシップ」制度を設けています。この制度はブレインターンシップとして位置づけ、本学の施設管理等を委託している(株)ビーオーテクノサービスや学食を運営する(株)ヤタローに協力をいただき、学生が空き時間を利用して学内で就業体験を行います。最初から学外のインターンシップに参加するのにためらいがちな1、2年生にオススメです。



モデルケース

1・2年次／学内インターンシップ ▶ 2・3年次／学外インターンシップ ▶ 3年次／就職活動 ▶ 4年次／内定へ!

入学時は活動範囲が狭く、社会とのコミュニケーションはアルバイトからというのがよくある話です。本学では、まず学内インターンシップや学生が運営するキッズスクールから始めるという選択肢もあります。学内での活動で「働く」ということのイメージをつかんだうえで一般企業等のインターンシップに参加すれば、インターンシップをより充実したものにできます。

活躍する卒業生①



公益財団法人御前崎市振興公社勤務
鈴木 宏恵さん(2009年3月情報学部卒業)

人との縁を大切に、お世話になった人への恩返しを忘れないことが活動の源です。

さまざまな海外研修や留学生との出会いがある静岡産業大学。静岡県の交流事業で中国に派遣された経験もある鈴木さん。在学当時、留学生との交流がきっかけで世界各国へ出かけたことが彼女の成長につながったと言う。「大学で知り合ったインドネシアや中国の友人と交流を深める中で、彼らの国へ招かれる機会に多く恵まれたことは有意義なことでした。学生時代に海外に一人で行けることは自己研鑽になると思います。その経験によって主体性や精神的な強さを得ることができたと思っています。」

卒業後は御前崎市振興公社へ。「生まれも育ちも御前崎市。教員になりたいくて産大に入り、教職課程を履修していた時、先生の紹介で小中学生のための体験学習プログラムに活動指導ボランティアとして毎年参加しました。これがきっかけで、今の仕事をしています。子どもたちに広い視野や多様な価値観を持ってもらえるような企画や、御前崎市に興味と愛着を感じてもらう活動に携わりたい。」と語る。「人の縁を大切にすること、お世話になった人への恩を返すことを忘れない」と語る鈴木さんのモットーは卒業してからずっと変わらない。学生生活で培った学びや人脈を生かしながらチャレンジしつづける鈴木さんの活躍が、生まれ育った地域の未来につながることを期待したい。

INFORMATION

トランポリン部が大学日本一に

8月25日から27日、川崎市とどろぎアリーナにて大学生国内最高峰の大会となる『第52回全日本学生トランポリン競技選手権大会』が開催され、本学トランポリン部が大学男子日本一となる結果を残しました。本大会は日本を代表するトップ選手から大学入学後トランポリンを始めた選手までレベルに応じて出場する大会となっており、本学はトップのAクラスから中級のBクラス、主に初心者が出場するCクラス全ての男子団体部門で優勝することができました。Aクラスでの優勝は価値のあるものではありませんが、全ての部門で優勝できたことは更に価値のあることです。4月からトランポリンを始めた仲間が上達し半年も経たずして本番で堂々と演技する姿は誇らしく、団体得点0.055の僅差でCクラス優勝を果たしたことでチーム全体が勢い付き、Bクラス、Aクラスの優勝へとつながりました。新チームスタートから徳増監督が主導し「考動力の強化」「チーム力の深化」を目的に、全員で考え出した「有難う!~難が有る事に感謝する力~」をスローガンとし、数々の学生ミーティングを重ね、大学日本一の目標達成に向けた努力が結果として表れました。チームに関わっていたいた皆様に感謝し、今後もこの取り組みを更に進化させ、より良い報告ができるよう、一丸となって考動力の強化、チーム力の深化を図っていきます。



SSUから発信するヒト・モノ・コト情報

男子バスケ部、インカレ初出場!

「第69回全日本大学バスケットボール選手権大会(インカレ)」の予選となる「第88回東海学生バスケットボール1部リーグ戦」で男子バスケットボール部が第3位となり、創部13年目にして初のインカレ出場を決めました。県内の学生リーグ戦では2連覇中の男子バスケ部ですが、いまだインカレ出場を果たすことが実現できていませんでした。これにより、一つの大きな山を越えることができ、今後は全国でも活躍が期待できます。



磐田ボニータ 2017プレナスチャレンジリーグ 優勝!

2010年より参戦してきました日本女子サッカーリーグ・チャレンジリーグにおいて優勝を果たし、なでしこリーグ2部への昇格を決めることができました。過去2年は昇格をかけたプレーオフに進出しましたが、2度とも敗れ、悔しい思いをしました。今季は、開幕から勝利に恵まれず、一時は最下位に甘んじていた時期もありましたが、第10節からプレーオフ最終節までの9試合を8勝1分の無敗で勝ち抜き、念願の優勝を果たすことができました。



「産大生が選ぶ磐田市のおすすめ飲食店グルメマップ」を作成

経営学部の葉ロゼミナールの学生有志7名が、専門ゼミナール活動で「静岡産業大学学生が選ぶ磐田市のおすすめ飲食店グルメマップ」を3種類作成しました。この取り組みは、学生目線で磐田市内の「おいしい飲食店」を紹介し、観光客に市内を回遊してもらうためのグルメマップ作成を趣旨とし、今年6月より磐田市商工観光課からの依頼で進めました。学生らはチームに分かれ、店舗の選別からはじまり、お店での取材交渉・食レポ・写真撮影をはじめ、デザイン・レイアウト・キャッチコピー・紹介文の作成といった一連の作業をチームで協力しながら、手作り感溢れるグルメマップを作成しました。このマップは、県内外や磐田市に多くの人が訪れるU12国際サッカー大会をはじめ、全日本サーフィン大会中にも学生自らが配布するなどし、磐田市の観光アピールに貢献する形となりました。



第40回全国土地改良大会に おける研究成果の発表

10月25日に沼津市のプラサ ヴェルデで開催された「第40回全国土地改良大会」に本学経営学部熊王研究室のゼミナール生、伊藤優徳、堀光希、南雅文、吉原周作、渡辺歩の5名が、700人程が収容できる会場で「感動できる「静岡いただき弁当」への挑戦」と題して、研究発表しました。この研究は、マーケティング手法を駆使し、地域の食材を用いた弁当を企画開発する産学官連携の取り組みです。全国から参加される土地改良関係者に大会を楽しみ、当日の想い出を持ち帰ってもらうためのデザイン面での工夫、感動をもたらす弁当の完成に至るまでの研究成果を発表。終了後は会場から大喝采を頂きました。当日は、約2,800食を売り上げ、地域にも大きく貢献。会場内の本学ブースでは、併せてポスター発表もされ、参加者から学生への質疑では研究の苦労点などに応答していました。



海外研究(ビジネス)を台湾にて実施

9月12日から15日まで、今年度の授業は経営学部の1年生から4年生までの11名が履修し、台湾の先端的なICT技術と商業施設を見学してきました。台北のサイエンスパークでは、台湾がアジア地域の中で、産業的に重要な位置を占め、国が教育に多大な費用をかけ取り組んでいることに、学生達は感銘を受けていました。また、世界のトップクラスに位置するフェイホンテクノロジー社を見学。日本のメーカーでも採用されている機器が作られていることなどに驚いていました。両施設では、ハリウッド映画にも登場するような、画面操作できる大型の液晶モニターを体験し、大学設備と教育の関係も知ることができました。台北の商業施設は日本資本によるショッピングゾーンで違和感のないものでしたが、実際の価格設定やサービスの方法の違いを実体験。さらに、台北独特の夜市では、現地の食文化にも触れながら日本と台湾の違いを肌で感じ、有意義な授業となりました。



韓国企業、日系企業を訪れ 多様な文化を体験

9月11日から14日までの4日間、韓国で行われた海外ビジネス研修は、グローバルな思考力を身につけ、日本及び世界で活躍できる人材育成を目的とした研修です。今回の海外ビジネス研修では、韓国に進出している日系企業(丸亀製麺)やグローバルに事業を展開する韓国企業(サムスン、SMエンタテインメント)等を訪問しました。丸亀製麺では、韓国での丸亀製麺の取り組みを学ぶとともに、参加学生が新商品のアイデアをプレゼンするワークショップも行われました。また、交流協定校である大真大学の学生との交流も行い、韓国の学生と直接触れ合うことができました。今回の研修により参加学生は、グローバルビジネスの実態について理解を深めるとともに、韓国の多様な文化を体験することができました。

